



絵本の魅力を届けます チャレンジ塾 福井 絵本くらぶ

県社会福祉協議会がシニア世代の力を地域に生かすことを目的に開催したボランティア養成講座の修了生たちによって、2013(平成25)年に結成された絵本の読み聞かせボランティアグループ。「赤ちゃんからお年寄りまで絵本の魅力を伝えたい」と、50~70代の男女18人が活動している。子育て支援センターや幼保園、児童館、児童クラブ、図書館などで、絵本の読み聞かせのほか、わらべ歌遊びや伝承遊び、音楽遊び、工作遊びなどを交えたお話し会「ゆずり葉」も開催している。2018(平成30)年には内閣府の「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」賞を受賞。コロナ禍で活動が制限されることが多く、活動回数はピーク時の半以下になったが、それでも昨

年度は年間300回近く活動した。月1回の勉強会では、お薦めの本を紹介し合ったり、読み聞かせの技術を磨いたりする。取材の日は「民話、昔話、伝説の違い」や「なぜ昔話が子どもたちに必要なのか」「繰り返し読むことの大切さ」などを担当者が発表する形で再確認していた。初めて参加したという男性は「共通のコンセプトを持った活動だからこそ長く続いているし、今後も続くと思う」と参加者らの意識の高さに感心していた。「読み聞かせの場は喜びをもらえる。こちらこそありがたい」との気持ちで話す参加者や「必要な道具も年齢制限もなく豊かな時間を楽しめる。これからのライフスタイルに充実感をもたらしてくれる」と期待を寄せる声も聞かれた。好きなこ



取材日の勉強会に参加した「チャレンジ塾 福井 絵本くらぶ」の皆さん＝福井市光陽2丁目の県社会福祉センターで

とを地域に生かし、社会貢献することが生きがいにつながっている様子だ。塾長の太田泉さんは「絵本を通して幸せな時間の風景は『愛された記憶』として一生心に残ります」と話し、「良質な絵本には心を育み、心の深いところに寄り添いながら、より良く生きようとする心を励ます力があり

ます。その力を発揮するために、大人(親や祖父母)の声に乗せて子どもたちの心に届けることが大切なのです」と力を込めた。今後要請があればどんなイベントも募集しているという。興味を持った人は塾長の太田さん☎090-8701-3978に問い合わせを。

可愛いウサギが待っている！ ふわふわ・もふもふ 癒やしの世界へ

ネザーランドドワーフ専門店 うさんぽ&うさカフェ



オーナーの有田さんと、同店のアイドルひめちゃん＝いずれも福井市和田東の「うさんぽ&うさカフェ」で

3月26日、福井市和田東に北陸初のウサギと遊べるウサギカフェとウサギ専門のペットショップが併設する「うさんぽ&うさカフェ」がオープンした。全国放送の夕方の情報番組

などに取り上げられたこともあり、早くも県内外からウサギファンがやってくる人気スポットになっている。

店には9羽のネザーランドドワーフ(小型のウサギ)がおり、このうち1羽を選んで、時間決めて触ったり、半個室に入って遊んだりできる。

オーナーの有田真由美さんは、ネザーランドドワーフはイギリスの童話「ピーターラビット™」のモデルとなった品種で、目が大きく愛らしい丸顔が特徴。幼少時からピーターラビットが大好きだったという有田さんは、いつか大好きなウサギと自由に触れ合える場



ウサギと遊べるコースいろいろ♡

テーブル席でウサギをなでなで♡
「なでなでコース」30分1,100円〜
半個室(定員4人)でウサギと存分に遊べる♡
「もふもふコース」30分1,300円〜



※いずれもウサギ1羽、1人当たりの料金でドリンクと餌が付く。
「もふもふコース」は家族やグループなど、人数が増えると料金に割引が適用される。
※その他、ドリンクや餌なしの「お手軽コース」や、お家で飼っているウサギを同伴できる「ちもしー(ウサギの餌)食べ放題コース」などもある。

所を作りたいと思っていた。コロナ禍で以前ほど自由に外出できなくなった中「少しでも人々の癒やしになる場所が提供できれば」と開店を決意したという。

店内はウサギと触れ合える半個室が2つと、テーブル席がある。ランチやカフェメニューも充実。特に有田さん手作りの「高菜チャーハン」や「タレ焼きそば」は評判の人気メニュー。

動物との触れ合いによる癒やし効

果は、科学的にも証明されている。「疲れたな」「頑張ったな」と思うとき、ふわふわ・もふもふのウサギに会いに行ってしまうのがだろうか。

※価格はすべて税込み
ネザーランドドワーフ専門店 うさんぽ&うさカフェ
●福井市和田東2-2223
●0776-21-6115(予約可)●営業時間
●正午〜午後5時
(ランチタイム正午〜午後2時)
●水曜日、その他不定休あり
●13台
●ホームページ、
●YouTubeで情報発信中
※ウサギの洋服や餌、店のオリジナルグッズも販売

雨のおはなし

とらがあめ 虎が雨

1193(建久4)年の5月28日は、「日本三大仇討ち」の一つともいわれる「曾我兄弟の仇討ち」が決行された日、兄の曾我太郎の命日でもある。以来、この日に降る雨は、十郎の恋人で遊女の虎御前の悲しみの涙と言われ「虎が雨」と呼ばれている。

仇討ちの後、尼となった虎御前は諸国を巡り歩いて、各地に曾我兄弟の供養塔や墓を建てたそう。一説によると、虎御前の生母は福井市種池の出身と言われ、同市種池1丁目には「虎塚」(写真①)がある。福井市片山町の朝宮から府中に通じる街道筋の道路脇にあるのは、高さ1.5mほどの「虎御前の五輪塔」で、鎌倉時代の石造建造物の特色を備えている(写真②)。その他、同市上文殊地区には「虎御前の墓」があるなど、県内各地にもゆかりの遺跡が見られる。

今年は6月26日が旧暦の5月28日。NHK大河ドラマと同じ時代であった「虎が雨」の物語を知ると、梅雨の景色が変わって見えてくるのでは。



低価格でも安心できる家族葬を プランで選べる家族葬

命あるものには必ず訪れる別れの時。葬儀をどう執り行うか、費用はいくらかかるのか…、悲しみに暮れる暇もなく、現実的な問題に右往左往したという人も多いのでは。ライフスタイルの変化やコロナ禍などで家族葬も多くなってきた。直葬・家族葬専門の葬儀会社ファミリアは葬儀スタイルをプラン化して金額・内容がわかりやすく提示しているため、自分に合った葬儀内容が選びやすく好評だ。



直葬・家族葬専門ファミリア代表の宮腰一成さん(47・写真)がこの業界に入ったのは、約20年前のこと。手伝いに行った葬儀の現場で、てきぱきと現場を執り仕切るスタッフの手腕に感動し、仕事なのに最後に感謝されることに衝撃を受けたのがきっかけだったそう。入社後猛勉強を重ね、信頼の指標とも言われる厚生労働省認定の一般葬祭ディレクター技能試験に一発合格。社葬クラスの大規模な葬儀もこなせる知識と実力で経験を積んできた。その一方で、従来の葬儀スタイルや費用に戸惑う遺族の姿を何度も見てきたという。「葬儀にお金をかける時代は終わった。形式にとらわれない負担のない葬儀を実現したい」との思いが徐々に募り、小規模葬を専門とする会社を立ちあげた。「何でも聞いてほしい。事前相談も遠慮なくどうぞ」と宮腰さん。話すとき誠実さが伝わってくる。「この人で良かったと思ってもらえたらうれしい」と笑顔で話してくれた。

直葬・家族葬専門ファミリア
事務所 ●福井市足羽1-15-21 ●0776-35-3505
ホームページはこちら

ファミリアが提案するプラン

直葬プラン 火葬のみのプラン 135,000円 (税込148,500円)	家族葬ミニプラン お花を飾って式はしたい(ミニ祭壇あり) 280,000円 (税込308,000円) 1日葬もできます	家族葬ハートプラン 通夜・葬儀を身内だけで 400,000円 (税込440,000円)
---	---	--

この代プランアッププランも有り。どのプランにもオプションでお経付プランを加えることが可能。お寺やお墓のごことで困っている人の相談にも応じてもらえる。

今月の読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

■はがき [宛て先] 〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内 「さんぽみち」6月号プレゼント)係

■メール osanpo@fukuikoho-c.co.jp

■LINE さんぽみち公式アカウント ID: @059fzwww

お友だち 募集中!

メール、LINEの場合は、件名または本文初めに「さんぽみち」6月号プレゼント係)と入力してください

LINEのお友だち登録はこちら

- | | | | |
|---|----|--|----|
| A 三國屋善五郎 本店
「お煎茶ソフト 式部の香り(S)引換券」 | 3人 | E フルーツのウメダ
「贅沢アイス パー引換券」 | 3人 |
| B 道の駅 パークイン丹生ヶ丘
「越前塩あずきソフト クリーム引換券」 | 3人 | F グランディア芳泉
「旬の泉 ジェラート & シャベット引換券」 | 3人 |
| C 手摘屋 フルーツラボ
「トルペまたはジェラート (シングル)引換券」 | 3人 | G JURAKU 鯖江店
「夕張メロンモリモリ ソフトクリーム引換券」 | 3人 |
| D 洋菓子 ハシモト
「自家製ソフト クリーム引換券」 | 3人 | H ベリ果
「自家製ソフト クリーム引換券」 | 3人 |

締め切りは6月20日(月)必着

※当選者の発表は、プレゼントのお届けをもって代えさせていただきます。

福井ユニテッドFC ホームゲーム

ペアチケット

応募締め切りは6月11日(土)必着。詳しくはカラー一面をご覧ください。(ホームゲーム全試合共通です。)

5人

スタッフ日記

わが家の庭の片隅に1本の梅の木がある。今年も春先に白い花が咲き、5月に入ると小さな実を付け、どんどん大きく成長している。今年も梅仕事の季節がやってきた。一昨年から長女夫婦と次女も参加して楽しく梅の収穫をしている。お酒の好きな義理の息子(長女の夫)と次女は、一昨年、昨年の2年連続で、青梅を焼酎やブランデーに漬込み、梅酒を作った。下町の長女は、青梅と氷砂糖で梅シロップを作った。水や炭酸で割ると爽やかなドリンクになり、暑さも疲れも解消するらしい。昨年は各自が作った梅酒や梅シロップを持参し、わが家で「飲み比べ会」を開催。「自分で作ったものは格別においしい」と自慢話をつまみに、くいぐい飲み続けた。コロナ禍の中、たまにみんなの顔が見られるのも楽しみのひとつ。今年の収穫もみんな楽しんでみたいと思う。

個人情報保護法

さんぽみちではお客様ご本人に記入いただいた個人情報、さんぽみちのホームページにおいて適切に管理し、プレゼントの企画等に活用させていただきます。